

Share KASA

代表者 綿重 早織 (理学 B3 年)
構成員 増田 雅也 (国際 B3 年)

1. プロジェクトの目的

山口大学内での傘の盗難の抑止, 突然の雨で困っている学生を助けることを目的とする。

現在, 唯一傘の無料貸し出しを学内でしている大学図書館で傘の返却率について聞いてみたところ, 貸した傘は 1 割も返ってこないとのこと。このことから貸した傘がより高い割合で返ってくるような仕組み作りも行いたいと考える。

また全国的にもあまり成功している例がないシェア傘の調査と実施を行うことで山口大学のみならず幅広い人々の役に立つシェア傘のモデルケースがどのような形であるかを模索し, 追究する。

2. プロジェクトの概要

山口大学内の主要な箇所 (学部棟, 共通教育棟, 学生食堂など) で自由に借りて返せるシェア傘の運用をする。校内の数か所でシェア傘をすることとオリジナルの傘を作り, シェア傘専用の傘であることを明確にすることで返却率の高いシェア傘を目指す。

3. 当初の活動予定

- ① 山口大学のロゴが大きく入った目立つ傘を作成する (オリジナル傘が作れるネットサービスを利用する)。
- ② 山口大学内の主要な箇所 (学部棟, 共通教育棟, 学生食堂など) の傘立てに①を置かせもらえるように交渉し, 設置する。傘立てがない場所には傘立ての設置を行う。
- ③ ポスターなどによりシェア傘の告知を行う。シェア傘の主な利用方法は, ②で指定された場所 (複数か所) で傘を自由に借り, 指定された場所 (最初に借りた場所じゃなくても OK) に傘を返す, というものである。
- ④ 傘が利用されたら定期的に傘の場所が偏らないように傘を分配し, 足りなければ補充する。
- ⑤ ④の行程を 1 か月間続ける。まずは理学部棟, 共通教育棟, 学生食堂 (ボーノ) の 3 か所にそれぞれ 5 本ずつ設置する。3 か所合計 50 本の消失まで実施し, 利用率と返却率を調査する。

4. 活動結果

4.1 オリジナル傘の制作について

オリジナル傘 50 本を制作した。「Share KASA」という文字と山口大学のものであるということを明記し, 返却率が高くなるように工夫した。また, オリジナルのマークを取り入れ, 多くの人に利用しやすいようなデザインになることにも配慮した。

4.2 「Share KASA」スポット設置のための交渉について

11 月までに理学部棟, 共通教育棟, 学生食堂 (ボーノ), 教育学部棟の 4 か所で設置依頼を完了させた (予定は 3 か所であったが, これに教育学部棟を追加した)。12 月に「Share KASA」活動をスタートさせると, 非常に好評であったため, 人文学部棟と農学部棟にも交渉し, 設置依頼を行った。

4.3 「Share KASA」活動と返却率調査

「Share KASA」活動を 12 月 1 日～3 月 31 日まで行い, 利用状況と返却状況を調査した結果, 総利用貸し出し数は 142 本, 返却率は 67% であった。貸し出し数を増やすため, 雨の日は傘を補充しに行き, 借りたいときに傘がないという状態を防ぐ工夫をした。また, オリジナル傘を制作したおかげもあってか, 当初の返却率目標 6 割を上回る結果となった。

5. 感想

本プロジェクトを通して学んだことが 2 点ある。1 点目は, 傘のシェアリングは今後, さらに注目されるサー



図1 オリジナル傘出来上がり写真



図2 「Share KASA」活動の実施風景

ビスとなりうるという実感である。2月に中国新聞（2019年3月1日掲載）から取材をしていただいたことをはじめ、学生や職員の方からの反響も大きかった。これは傘のシェアリングへの潜在的なニーズと期待が顕在化したものと考ええる。2点目は周囲の人と協力することの大切さである。当初、一人でプロジェクトを進めていたが、傘の管理などなかなか一人では難しい場面があった。その際に新たなメンバーを呼びかけ、実際に協力してくれたメンバーのおかげで作業の効率化や新たな視点からのアイデアなどを得ることができた。また、想像以上に多くの関係する職員の方々の協力をうけて、本プロジェクトを実施することができた。このようにになにかを達成するときに一人ではなく多くの人を巻き込みながら実現していく必要性和大切さを学ぶことができた。最後に、本プロジェクトに協力してくださった方々、「Share KASA」を利用してくださったみなさん、本当にありがとうございました。